

3(3) 長音(ながい音)の指導 (7時間)

ながい音とみじかい音...1時間 各段...各1時間(5時間) 特別な書き方...1時間

あ段

の指導

右の絵を見せて、何かと問う。

「はと」「はあと」

ぼたん「・」とぼう「-」で表記させる。

次の図も同じようにする。

「おばさん」「おばあさん」

「はと」と「はあと」では、どの音がちがうか考えさせる。

「は」と「はあ」がちがう

「は」はみじかい音

「はあ」はながい音

「おばさん」と「おばあさん」も同様に する。

「はあ」とか「ばあ」とかは何の段のながい音?

あ段

「はあ」「ばあ」とのばすと「あ」の音が聞こえるから

「は」も「はあ」もながさのちがいはあるけれど、一つの音だ。

「は」は「は」と書く。では、「はあ」はどう書いたらいいだろう?

「はあ」と書く。

「は」の後に「あ」を書く。

「は」の後に「あ」をつける。

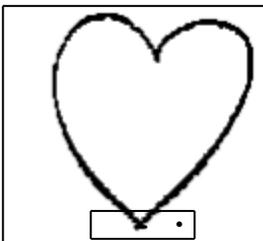
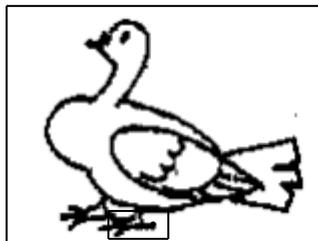
「-・」のところに「はあと」と書く。

「おばあさん」も同様にする。

「はあ」というのは、一つの音だけど、書く時には「は」の後に「あ」をくっつけなければいい。でも、二つの文字で書いてあるからといって、読む時には、ひとつひとつ区切って「は・あ・と」と読むのではない。「は」の長い音は「はの後に「あ」をつけるという《約束》があるのだから、「はあ(ハー)」とのばして読む。

あ段はどんな音があったらう?

あかさたなはまやらわ



がざだば

あ段のながい音がつく単語をさがそう。

らあめん おかあさん さあかす

あ段のながい音がつく単語をしめして、ながい音をたしかめる。

すかあと ぎたあ

みじかい音には「・」、ながい音には「-」をつけさせる。

まとめ

あ段のながい音は、あ段の文字に「あ」をつけて書く。

二つの文字をつかって書くが、読む時は一つの音だ。

練習

あ段のながい音を読む

あ段のながい音を書く

みじかい おと	あ	か	さ	た	な	は		ま	や	ら	わ
ながい おと	ああ	かあ	さあ	たあ	なあ	はあ		まあ	やあ	らあ	わあ
みじかい おと		が	ざ	だ		ば	ば				
ながい おと		が	あざ	あだ	あ	ばあ	ばあ				

ここでの長音の指導は、特に工夫もなされていない、エキスのようなものです。ある意味では、原則を示したものです。

これまで、多くの1年生の担任は、長音を1年生に理解させるために様々な方法を使ってきました。その中の典型が右絵です。

あ段には「あ」のお母さん(母音)がいて、あ段をのばす時には、「あ」のお母さんがお手伝いにくるのだ、と説明します。たとえば、

「はあと」の場合、「ハー」と「は」の音をのばしたとき、「あ」の音が聞こえてくることに注目させます。そこで、「ハー」の「-」の部分に「あ」のお母さんがやってきて、お手伝いしてくれる、というようにするのです。実際には、「ハー」は一音節ですから、一つの音です。でも、お母さんの手助けがなければ、「は」だけでは「ハー」という音を表せないことを教えます。

そして、「え段」「お段」の長音の時には、お母さんが留守をしていた、というシナリオを設定するのです。

1年生では、このように絵をつかった指導などが効果的です。実態に合わせて、さまざまな工夫をしてみましょう。



え段

の指導

右の絵を見せて、何かと問う。

とけい

せんべい

ぼたん「・」とぼう「-」で表記させる。

みじかい音とながい音を確認する。

とけい...みじかい音「ト」 ながい音「ケー」

せんべい...みじかい音「セ・ン」 ながい音「ベー」

「ケー」「ベー」は、何の段の音がのびているか考える。

「え段」

のばすと、「え」になる

書くときにはどう書いたらいいか考える。

「けえ」「べえ」

*ここまでの流れでいくと、当然、このように答えることが予想される。

一方で、すでに表記を知っている子からは、「トケー」は「とけい」と書くという指摘もあるかもしれない。

今までどおりなら、「トケー」は「とけえ」と書くことになる。しかし、え段の場合は、「え」のかわりに「い」を書くという《やくそく》になっていることを教える。

たしかめ

「トケー」はどう書く? 「とけい」

「センベー」は? 「せんべい」

書くときには、「けい」と書くが、音は、「ケー」とのばした一つの音であることをおさえる。けっして、「と・け・い」とはならないことをおさえておく。

え段の音は、どんなのがあったらう?

えけせてねへめれげぜでべ

え段のながい音がつく単語をさがそう。

せんせい せいと せいふく ていぶ

え段のながい音がつく単語をしめして、ながい音をたしかめる。

ゆうれい ていぶる

みじかい音には「・」、ながい音には「-」をつけさせる。



まとめ

え段のながい音は、え段の文字に「い」をつけて書く。

二つの文字をつかって書くが、読む時は一つの音だ。

練習

え段のながい音を読む

え段のながい音を書く

みじかい 音	え	け	せ	て	ね	へ		め	え	れ	え
ながい 音	えい	けい	せい	てい	ねい	へい		めい	えい	れい	えい
みじかい 音		げ	ぜ	で		べ	べ				
ながい 音		げい	ぜい	でい		べい	べい				

「お母さんの絵」を使って指導してきている場合

え段だから、ここのお母さんは?

「え」のお母さん。

だから、「トケー」は「とけえ」と書く。

ところが、今日は、「え」のお母さんは出かけていて、いない。そこで、近所の「い」のお母さんがやってきて、助けてくれた。そこで、え段のながい音は、「え」の代わりに「い」を書くことになった。だから、

「トケー」は? 「とけい」

「センベー」は? 「せんべい」

「い」のお母さんは、「え」のお母さんの代わりだから、「とけい」と書いてあっても、「と・け・い」と読むわけではない。「とけい」は「え」のながい音があるから、読む時は「トケー」と読む。

「お段」の場合も、「え段」と同様に進めます。「お」の代わりに「う」をあてます。そして、発音は、「そうじ」と表記しても「ソージ」となることをおさえます。そのことをしっかりと定着させるためにも、「・」と「-」で短音と長音をあらわすことは大切です。

ただ、現在では、一般的に、「とけい」を「と・け・い」と読んだり、「そうじ」を「そ・う・じ」と読んだりすることも多くなっています。日本語の長音の表記と発音の揺れが曖昧さとなってあらわれているのですが、1年生には、原則を教えるおかねばなりません。

